

## 【富山県経済・文化長期ビジョン 「採るべき具体的行動」】

青年部会委員等から提案のあった「将来の富山県を展望し、採るべき具体的行動」を事務局で分野別に整理したもの（表題は一部事務局で抜粋）

### <文化・人づくり分野>

#### （1）文化振興（芸術文化、伝統文化、伝統工芸など）

66	世界の子どもや文化留学生が集う芸術文化拠点の形成	2
67	「伝統工芸の技と知のセンター」立ち上げ	2
68	本県の文化力をパッケージ化した海外での売り込み戦略	2
69	食と伝統工芸、伝統芸能をセットで売り込み、様々な国のライフスタイルに対応した伝統工芸新商品	3
70	富山県を観光する意味づくり、県内に在住する女性へ文化施設のアピール	3
71	文化施設と商店街との連携強化	4
72	「文化消滅可能性都市」にならないための整備	4
73	伝統芸能版 B - 1 グランプリ	4
74	ガラスへの継続的支援	5
100	実は美術王国富山の発信	5

#### （2）ふるさと教育

75	ふるさとの良さを認識、外へ発信する体験	6
76	富山の偉人や文化を幼少から教育、成人になっても改めて周知	6
77	ドラマ（富山の偉人）の制作放映	6
78	ふるさと教育を学校教育の中で取り組み親子等世代間で共有	6
79	先人が語った言葉（著書、関連書）や映像等に触れる機会	7
80	富山で活躍した先人の発掘（江戸時代以前）	7

#### （3）人づくり（教育全般）

81	「グローバル&ローカル」を特徴とした富山県型カリキュラム	8
82	人財のベストマッチングのため、教育機関との連携	8
83	理系学生の教育（特に女性）	8
84	教育の再構築	9
85	文化施設と学校が共同で学習プログラム	9
86	本県ならではのキャリア教育の推進	9
87	県立大学に医薬系・文化系の学部を充実	10
88	富山県の教育に再注目	10

#### （4）ライフスタイルの転換

89	富山型シェアリングエコノミーの推進	11
90	「のんびりやろう富山県 キャンペーン」	11
91	空き家の活用と県外学生支援	12

### <グローバル化（経済・文化に含んだものを除く）>

92	留学制度推進、幼稚園から英語教育、小・中・高の外国人英語教師の必置	13
93	就職後にも英語教育に触れられる富山県独自の教育プログラム	13
94	学生・社員が、より英語に親しめる仕組み	13
95	若手向けの「青年経済訪問団」	14
96	日本海側の国際都市	14

<文化・人づくり分野>

(1) 文化振興（芸術文化、伝統文化、伝統工芸など）

**66世界の子どもや文化留學生が集う芸術文化拠点の形成**

グローバル化が進展する中、富山に誇りや愛着を持って世界で活躍できる人材が必要である。富山県の特徴ある国際文化行事などを活用して、世界の子どもや文化留學生が集う芸術文化拠点の形成に取り組むとともに、学校での国際文化交流の充実や、ふるさとをPRできる知識と英語力が持てる教育の実施などにより、20年、30年後、富山県ゆかりの者が様々な国際交流の中心を担い、世界での富山の存在感を一層高めることを目指してはどうか。

**67「伝統工芸の技と知のセンター」立ち上げ**

伝統産業分野におけるプレゼンスを高めるために、富山を伝統文化・工芸の聖地・メッカとすべく、世界から職人や研究者が集まる“伝統工芸の技と知のセンター”を立ち上げ、富山県の文化力を世界へ発信する拠点となるようなハード・ソフト両面でのインフラ整備に官民一体となり取り組んではどうか？あわせて、空き家を県外からの移住者や外国人留學生に活用し地域に溶け込んでもらうことで富山の歴史や文化のアンバサダーとなってもらい、住む人を呼び込む施策と住む人を留める施策を連動させてはどうか。

**68 本県の文化力をパッケージ化した海外での売り込み戦略**

伝統的工芸品を売り込むため、富山県の食文化とコラボレーションした海外販路開拓に取り組んではどうか。富山の優れた「w a z a」を一堂に集約し、併せて富山の自然や生活様式など、本県の文化力をパッケージ化した海外での売り込み戦略を検討し、富山の文化コンテンツ市場を、20年、30年後、本県GDPの1%規模まで引き上げることを目指してはどうか。

## 69食と伝統工芸、伝統芸能をセットで売り込み、様々な国のライフスタイルに対応した伝統工芸の新商品

伝統的工芸品や伝統芸能は、生産額の減少や後継者不足などの課題がある。富山県の豊富な美味しい食材を活用し、富山の食、富山の伝統的工芸品の食器、富山の伝統芸能披露をセットにして売り込むなど、新たな需要の掘り起こしを行うとともに、伝統的工芸品では様々な国のライフスタイルに対応した新商品の開発を促進する、伝統芸能では意欲のある県外在住者も担い手として活動に参加するなど、20年、30年後には、伝統的工芸品と伝統芸能が富山の文化コンテンツの一角を担う存在となることを目指してはどうか。

## 70 富山県を観光する意味づくり、県内に在住する女性への文化施設アピール

現状では、富山県に観光に来た人が県内の新幹線駅に降り立った時、一瞬がっかりするように思う。口コミ（SNS など）でその良さを広めてもらえるような、街づくり、観光地づくりの仕掛け、デザインが必須。

- ・富山市を県の文化的ハブ化。

富山市、富山駅に降り立てば、県の文化（食文化、伝統文化（工芸・芸能）、葉、ものづくり、文学・漫画、遺跡・発掘物、国宝・重文など）をしっかりと総覧できるようにする。そこから高岡、氷見、八尾、立山など特色ある地域へと丁寧に繋ぐ。

市内には、新・富山県立近代美術館、ガラス美術館、高志の国文学館、県民会館、富山県水墨美術館、科学博物館・プラネタリウム、富山城跡、環水公園などがあるが、それらを簡単に周遊できるように公共交通・駐車場を整える。

その中でも特に、新・富山県立近代美術館には最新型活動内容をしかける美術館として機能してほしい。また、ミュージアムショップの充実など、鑑賞者に受ける要素を増やすことも必須。

- ・文化施設（博物館、美術館、水族館、植物園、動物園など）の利用促進  
学生（小・中・高・大）入場料金無料化など

- ・県内に在住する女性へ、富山県文化施設のアピール強める。

博物館、美術館開館時間延長実施（仕事のあと寄れるように）。

周辺にレストラン、カフェ等の魅力的飲食施設の誘致。

女性視点、母親視点の催事を増やす。

（新・富山県近代美術館には、開館前にこそ継続的なメディア、Web、SNS等でのアピールをお願いしたい。現状では、箱が新しくなるだけと思われてしまい、県民が抱く新美術館への期待値が高まりにくいように思う。）

## 71文化施設と商店街との連携強化

若者からは、街中に娯楽がない、シャッター街になっているなどの意見がある。富山県の文化施設の多さなどを活かして、商店街でのアウトリーチや、商店街のギャラリー化、文化施設のイベントでの出張販売など文化施設と商店街との連携強化に取り組むとともに、練習や創作活動での空き店舗の活用など商店街による文化の創造への支援などにより、20年、30年後、質の高い文化が娯楽として街に溢れ、文化が街の賑わいを創出していることを目指してはどうか。

## 72「文化消滅可能性都市」にならないための整備

少子高齢化のなかでも、追い風が少し吹いている分野。その土地々々の文化に関する技術や記憶を持っている高齢者がいる、という点で。ただし、これに安心していると30年後は存続できているか分からない。

富山県内の伝統文化は工芸と芸能にある。そして各地の祭りはその大小問わず、工芸と芸能のハイブリッドである。

・各地の祭の整備を強める。

特に「風の盆」「立山信仰」「御車山」について、景観の整備・保存、利便性の増強、周辺地域の教育機関と協力し、伝統文化の継承に関するモデルケースとなるレベルのものを作りあげる。

## 73 伝統芸能版B-1グランプリ

おわら、むぎや、こきりこなど、富山の優れた伝統芸能を知ってもらう、と同時に様々な伝統芸能にふれる機会として、全国各地の伝統芸能を集めた「B-1グランプリ」のような大会を企画してはどうか。県内外・国内外を問わず、観光客が集まれば、富山の伝統芸能の良さのみならず、食や伝統産業・工芸品や、豊かな自然など、富山ならではの魅力を知ってもらえる。富山への移住に結びつくと同時に、富山県民自身もふるさとの良さを再認識でき、郷土愛が深まることで若者の定住化、Uターン増加にもつながるのではないか。

## 74 ガラスへの継続的支援

ガラス美術館、ガラス工房を軸に、徹底的に富山県をガラスの聖地化する。ガラス作家はもちろん、ガラス工芸専門のキュレーターの育成と輩出が必須。

- ・ 若手作家への経済的支援
- ・ ガラス美術館、富山県主催のガラス国際コンペティション開催

## 100 実は美術王国富山の発信

富山には公設で現在新築中の県立近代美術館、富山市ガラス美術館、水墨美術館、私設で樂翠亭美術館、ギャラリーミレー、6月にオープンの森記念秋水美術館とさまざまな美術館があります。ただこれを県外、国外にまだまだPRしきれていないのではないのでしょうか。

県、市、民間の垣根を越えて、まとめてPRできないのでしょうか。直島とまではいきませんが、これほど美術品がある地方都市は珍しいです。それを中心部のあらたな観光資源としてPRできれば、短期滞在の方だけでなく、それを目当てに訪れる観光客も増えるのではないかと思います。

## (2) ふるさと教育

### 75 ふるさとの良さを認識、外へ発信する体験

富山県人は、富山の良さを発信するのが下手。良さを認識していない人が多いと言われている。富山県にはいろいろな良さがある。小学生高学年で富山県や市町村のことを調べて、良いところを認識してもらい、「ふるさと富山自慢大会」など各学校やクラスで発表する機会を設ける（県大会まで開催する）ことで、ふるさとの良さを認識、外へ発信する体験をしてもらうことで、20年、30年後、県内に定着するとともに、外から人を呼び込むことにつながるのではないか。

### 76 富山の偉人や文化を幼少から教育、成人になっても改めて周知

昨今の諸外国における領土問題や富山県の人口減少問題を考えたときに、「富山県人」として、さらには「日本人」としての歴史と誇りを再認識するためにも、富山の偉人や文化を幼少の頃からしっかりと教育出来るような仕組みづくりが必要ではないだろうか？さらには、成人になっても改めて歴史や文化を周知できるような資格や褒章制度があると良いのでは。

### 77 ドラマ（富山の偉人）の制作放映

若者のUターンなど人口増には、幼少期からふるさとに愛着を持つ必要がある。富山には、高峰譲吉、安田善次郎、浅野総一郎など数多くの偉人がいる。富山ゆかりの偉人を主人公としたドラマを製作し、郷土愛を醸成してはどうか。さらに、アニメ制作会社 P. A. WORKS があることから、アニメ映画の製作も有効かと思われる。

### 78 ふるさと教育を学校教育の中で取り組み親子等世代間で共有

富山で育った人材の県外流出を食い止めることが課題である。富山には、美しい自然環境と豊かな食文化、地域に根付いた伝統文化と先進技術産業など生活資源が豊富であることを、将来を担う子供世代が愛郷心として醸成することが望まれる。自ら学んだ事は深く心に刻まれることから、学校教育のなかで例えば夏休みの自由研究課題、学習発表会等のテーマとして取り組み、親子等世代間で共有し、20年、30年後の将来像を描ける人材を育ててはどうか。

## 79 先人が語った言葉（著書、関連書）や映像等に触れる機会

富山県ではふるさと教育に熱心に取り組んでいるが、諸分野にわたり国内外で活躍している本県出身者について十分には知られていないという印象がある。自分と同じ風土で育ち、それぞれの分野で名を遺した先人の生き方を知るとは、将来を考える若い世代にとって参考になると思われる。そこで、富山県教育記念館や高志の国文学館などを活用し、文学者を含む先人が語った言葉（著書、関連書）や映像等に積極的にふれる機会をつくり、本県の特色を知りつつ県外・国外で活躍できる人材の育成を目指してはどうか。

## 80 富山で活躍した先人の発掘（江戸時代以前）

県史を学ぶうえで偉人の物語は欠かせないが、江戸時代以前の知名度のある先人は、文人「大伴家持」だけである。

江戸時代以前においても、新田開発や交易など県土づくりに貢献した人は多くいるはずである。富山、あるいは環日本海、日本海側、北陸という大きなスケールで活躍した先人（集団）を発掘し、県民に愛され、尊敬されるスターに育てることが、富山県民としての誇り、自信を育むことにつながるのではないか。

（補足）

- ・12/22 青年部会では、30年後の将来像として“石川県に呑み込まれたくない”という意見が思いのほか多かった。これは富山県に対する愛着の表れだと思うが、裏を返せば、富山県民の石川県（金沢）に対する劣等感の表れでもある。つまり、愛着は十分あるけど、自信がない訳で、これが県民のPR下手につながっているのだと思う。
- ・江戸時代以降は、加賀藩がベースとなり、否が応にも石川県（金沢）を意識してしまう※ので、江戸時代以前で活躍した人を掘り起こし、県民に愛され、尊敬されるスターに育ててはどうか。

※例えば、石川県から独立した治水分県の話は、“県”の誕生を語るうえでは欠かせないが、いかにも加賀“本家”と仲違いして分家（圧政からの独立？）したような語り口になる。逆説的かもしれないが、“県”という単位で考えると、どうしても石川県（金沢）を意識してしまい、富山県民としての自信の確立からは、かえって弊害なのかもしれない。

### (3) 人づくり（教育全般）

#### 81 「グローバル&ローカル」を特徴とした富山県型カリキュラム

人口減少のなか世界をリードするような富山県を実現するには、グローバル人材の育成（教育）が非常に重要。また一方で、小さい頃から富山に愛着・誇りを持てる「ふるさと教育」の推進も重要。

「グローバル&ローカル」を特徴とした富山県型カリキュラムを作り、全県的に小学校から「英語」及び「ふるさと教育」に取り組んではどうか。また、裾野の拡大と同時に、グローバル人材育成のためのハイレベルな教育に取り組む大学または企業用の研修機関を整備し、全国から人材を集め（+県外への学生流出を防ぐ）てはどうか。以上により、富山がグローバル人材の育成拠点となり、世界の窓口となる富山を目指す。

#### 82 人財のベストマッチングのため、教育機関との連携を

10代から30代の若い世代が県外へ転出超過傾向にある。一方で、企業の若い担い手や人材不足は深刻である。また、産業構造の変化からますます人手不足が予想される業種も存在する。このことから、県は、企業が求める労働力、加えて今後どの分野にどんな労働力が必要なのか把握に努め、中等教育機関、高等教育機関との連携を高め、学ぶ内容や学校・学部学科の在り方を検討したかどうか。各卒業生の県内企業への就職率を高め、「人財のベストマッチング」を行えば県外流出に一定の効果が期待できる。

#### 83 理系学生の教育（特に女性）

富山県は製造業が多いので、就職先としても文系学生よりも理系学生の間口が広い。特に女性は文系志向が多いため、就職先としても製造業はそれほど多くないだろう。富山県に残ってもらう、戻ってきてもらうためには、早期から理系の教育が欠かせない。富山県の製造業と協力し、特別講義を小学校から定期的に行うことで、小さい頃からものづくりに興味を持ってもらうような取り組みをする。長期的に見れば地元企業の活性化、富山県の活性化を図る。独自の富山県の取り組みとしても全国から注目を集めるのではないか。

## 84 教育の再構築

教育に強みがある県とはいいいながら、博物館に代表される教育的施設の内容とアピールは不十分のように思う。未就学児童から高校生まで、受験勉強にとどまらない、発見、発明、創造といった、本当の知的活動につながる好奇心を刺激するようなものがこれからの人材育成にはさらに必要。

学力テストの成績を踏まえつつも、それに依存しすぎない、教育に関して理念のある、最先端の試みを行う県としたい。

- ・富山市科学博物館の増強

ノーベル街道との連携。県内の博物館との連携。学芸員増やす。

多彩な教育プログラム開催。

- ・中高教員について博士号取得者の積極的採用

学ぶこと、考えることの素晴らしさ、面白さを伝える教育の実践。

理系、文系教科ともに、勉強から研究につながる好奇心、探求心の開発。

## 85 文化施設と学校が共同で学習プログラム

美術館、博物館、文学館は、教育現場で活用できるコンテンツを多く有する場であると思われるが、現状では十分に活用されているとはいいがたい。周辺地域にある各種学校（小学校～大学）の学習、活動の場として積極的に活用されるよう、館と学校がお互いの意見・要望をすりあわせながら共同で学習プログラムを組んだり、教育普及活動を考えたりして、館が若い世代が活動する場として活用されることを目指してはどうか。（ただし、このための人手が必要になるとと思われる）

## 86 本県ならではのキャリア教育の推進

中高生が将来を考えるにあたり、さまざまな職業について知り、実際に働いている人の話を聞くことは大事である。そこで、生徒に事前にアンケートを実施し、将来なりたい職業として名前の挙がったいくつかの職種について、県内で活躍中の人々を数人ずつ招き、それぞれブースを設け、生徒が自分の興味ある仕事についての具体的な話を聞いたり、簡単な仕事体験ができる機会を設け、本県ならではのキャリア教育の推進を目指してはどうか。

### 87 県立大学に医薬系・文化系の学部を充実

富山県に魅力のある大学が少ないことが、若者の県外流出の要因のひとつになっている。現在、富山県は富山県立大学を開学しており、工学の分野において多くの学生を有している。将来、医薬系・文化系の学部も充実させ、総合大学として研究の分野で多くの功績を残すことができれば、富山の若者にとっても魅力がある大学となるし、さらに全国から人の集まる大学となれば、地元の活性化につながるのではないかな。

### 88 富山県の教育に再注目

富山県は教育という面ではトップクラス（学力テスト、インターンシップ、14歳の挑戦等）と考えるが、全国的にはそれほど伝わっていないのではないかな。「教育の富山」と捉えてもらえるよう、PRしていくことも大切と考える。例えば、インターンシップを通して学びの体験談を発表する場なども設け、県内だけでなく、県外にもアピールしていき、「富山型教育」を確立していく。

#### (4) ライフスタイルの転換

##### 89 富山型シェアリングエコノミーの推進

人口減少により「空き家」「空き地」「シャッター商店街」が増加する。また高齢化により、自家用車での移動が困難になる人が増える。新しいハコを開発するより、今あるものをどう再活用するかを考えることが重要。すでに富山には大きく立派な持ち家がある。また自家用車も1人1台の考え方から乗り合いの考え方への移行が必要。「住まう」「移動する」「泊まる」「文化活動を楽しむ」などの主要テーマで、「所有から共有へ」のシェアリングが推進される活動を推奨。現行の法律でグレーゾーンとなる部分を特例で一部解消することで推進していく。シニアがシェアリングエコノミーに参加しやすいよう、月1GBまで使い放題のスマートフォンを無償で提供するなどの工夫も。ないものねだりではなくあること探しを推進し、「富山型シェアリングエコノミー」を作る。

##### 90 「のんびりやろう富山県 キャンペーン」

富山県民の生真面目な気質から、女性は、結婚、子育て、仕事や介護を「全部きちんとやらなければならない」と考え、息苦しさを感じるような現状。また男性も、仕事に忙殺され育児の時間もとれない現状。こうした状況が続けば、ますます社会の閉塞感が強まる。また県外からきた人から見れば「住みにくい県」「堅苦しい県民性」と感じられるかもしれない。富山県民の生真面目な気質を少しでも緩和すべく、社会全体で「もっとのんびりやっていたいんだよ」「完璧にしなくていいんだよ」というメッセージを発する県民運動を展開する。企業は、人口減少による労働力不足を補うための生産性の向上を、ICT、IoT など新技術で対応することを目指し、人的消耗の少ない形で新たな産業構造を構築する。日本全体が「総活躍」と言っている中で、1県くらい「のんびりやろう」という情報発信をすることは、県のイメージの向上につながる。

## 91 空き家の活用と県外学生支援

富山市内や高岡市内においても、街中で空き家が増加している。また、若い世代が郊外で家を建てて転居し、市街地には1人暮らし高齢者が多くなるという現状もある。県内大学入学生の約半数は県外出身者となっているが、市街地の空き家を活用して、これらの若者が県内で暮らす「富山県（内）学生寮」を作る。（他県では市営住宅の空き室を学生用アパートに転用している例あり）シェアハウスとして1物件に3～4人で共同生活することで家賃を安くし、あわせて学生等に地域活動への参加を義務づけることで、地域と密接につながり、富山県への愛着が沸き、富山県の就職や定着化を図ることができる。一方、地域では、学生が地域活動に参加することで、地域の賑わい創出される。

## <グローバル化（経済・文化に含んだものを除く）>

### 92 留学制度推進、幼稚園から英語教育、小・中・高の外国人英語教師の必置

何か新しい発想を産み出せる環境作りが、将来の富山を救うと思うので、若いうちから外国との交流を広げるためにも、留学制度を推進する。

県外や外国に行くことで、富山の良さを一層再確認し、グローバルな視点で物事を見ることで、教わるだけの教育ではなく、産み出す力を養う教育を行う。

また、英語教育も幼稚園から始めたり、小学校・中学校・高校に必ず外国人英語教師がいて、「富山の人はネイティブな英語が話せる」という県を目指す。

### 93 就職後にも英語教育に触れられる富山県独自の教育プログラム

約 6 割の高校生が富山にずっと住みたい、また、一度富山を出てもいつかは富山に戻りたいとの回答結果が公表された。こうした未来を担う子どもたちのために、就職後にも英語教育に触れられる富山県独自の教育プログラムを開発してはどうか。グローバル化の一層の進展により国際社会での富山の存在感を維持していくことが求められる。また、文化発信によるインバウンドツーリズムの拡大にも取り組む必要がある。20 年、30 年後、県民の 5 割程度が英語で日常会話ができることを目指してはどうか。

### 94 学生・会社員が、より英語に親しめる仕組み

インバウンド、アウトバウンドを含め、今後海外とのコミュニケーションはますます当たり前化していく。

そこで、県内の学生・会社員が、より英語に親しめる仕組みを作ってはどうか。

例えば、TOEICスコアに応じた褒賞金の制定（+100点毎に10千円等）、海外留学の活性化（派遣先の獲得／奨学金の無償化等）、富山県人用の英語アプリの開発（主に富山県の魅力を英語で伝えられるようになるコンテンツ）等で英語の自己啓発をバックアップする仕組みなど。

### 95 若手向けの「青年経済訪問団」

県内の若手文化人や経済人が、積極的に外国の若手文化人や経済人と触れ合えるようなものがあると良いと思う。例えば県が主体的に行なっている経済訪問団ですが、若手向けの「青年経済訪問団」を作り、次世代の交流を活発にさせつつも、知事や各経済団体の長、年配の文化・経済人も同行いただき、次世代へのバトンタッチにもつながる仕組みも取り入れた訪問団の結成が良いのではと思う。若手は残念ながら先輩方と比べればはるかに人脈も経験も少ない。しかしそれらを補えるように人生の先輩からの立ち居振る舞いなどをしっかりと学ばせていただきつつ、青年らしい交流が出来るようになっていくとより長い目で発展出来るのではと思う。

### 96 日本海側の国際都市

日本海側の国際都市を目指す。

英語、中国語教育の義務化。

日本での法人登記は容易なので海外から日本に進出したい中小企業や個人事業主の受け入れを促進し、富山の企業家とジョイントする。

海外の能力ある方が富山に来る理由を観光以外でつくる。

国際結婚なども促進させる。